

都市空間、特に屋上・壁面緑化に向けた 軽量・薄層基盤植物の開発

1 中核機関・研究総括者

東京都農業試験場

橋本 智明

2 研究期間

2003～2005年度（3年間）

3 研究目的

ヒートアイランド現象の緩和、環境保全の観点から、新築ビル等の屋上・壁面緑化が推進されているが、耐荷重等既存建築物の緑化には限界がある。

そこで、従来の緑化植物にとどまらず一・二年草や宿根草、つる性植物を用い、積載荷重の制限や構造に制限のある既存建築物の屋上・壁面緑化に対応可能な景観植物として、これらの軽量・薄層化栽培技術を開発する。さらに、景観植物を屋上・壁面に植栽した場合の環境緩和機能やアメニティ効果を明らかにし、生産現場における技術の普及と経済性を実証する。

4 研究内容及び実施体制

屋上・壁面緑化に向けた植物生産技術の開発（東京都農業試験場、千葉県農業総合研究センター、京都府立大学、（独）農業技術研究機構花き研究所）

既存建築物の屋上に植栽可能な薄層・軽量コンテナ植物や超薄層マット植物、構造に制限のある既存建築物の壁面緑化に利用可能なつる性植物を開発する。

屋上・壁面緑化効果の評価（東京農業大学）

屋上・壁面緑化のヒートアイランド現象の緩和に及ぼす効果、景観形成植物が都市生活者に与える効果を検証する。

薄層・軽量コンテナ及びマット植物実用化のための総合評価（東京コニファー研究会、いんばマット植物研究会）

開発植物の効率的生産様式を確立するとともに、普及促進を図るため、開発植物の生産費の解析、経済性の評価を行う。

5 目標とする成果

薄層・軽量コンテナ植物、薄層・軽量マット植物、壁面緑化用つる性植物を開発し、環境緩和効果、アメニティ効果の評価と開発植物の生産実証及び経営的評価を行う。これにより、既存建築物の屋上・壁面緑化が推進され、都市生活者に潤いと安らぎを提供できる。